

9. 短期調査（第三回）資料 - プロジェクトドキュメント要約

(2001.9.14 現在)

プロジェクトドキュメントの要約

1. 案件名

(和文)カンボディア森林分野人材育成計画(仮称)

(英文) The Capacity Building for the Forestry Sector in the Kingdom of Cambodia (仮称)

2. 実施地域

カンボディア国 プノンペン及び近郊実習地

3. 協力期間(案)

2001年12月～2004年12月(3年間)

4. 相手国実施機関

(1) 主管官庁：農林水産省 森林野生生物局(DFW)

(2) カウンターパート機関：同上

5. プロジェクト要請の背景

5.1 要請の背景

カンボディア国の森林は、乱伐、違法伐採、農地拡大、住民の収奪等により、1969年に国土の73%を占めていた森林面積が1997年には58%まで減少し、特に近年は激減している。その結果、最大の森林利用者である地域住民及び共同体の生活基盤に対する懸念が生じている。

年次	1969年	1985年	1993年	1997年
森林面積(km ²)	132,000	119,000	113,000	105,000

表1 森林減少の推移

期間	1969～1993年	1993～1997年
年間森林減少率	0.6%	1.8%

表2 平均年間森林減少率

森林はカンボディアの自然資源の中で最も重要なものの一つとして位置づけられており、カンボディア外貨獲得の重要な資源である。また、国民の85%が森林や農業を生活の基盤と

しており、森林から得られる燃料材、木材生産物によって社会経済が成り立っているといえる。貧困の点から見ると、カンボディアの人口の約 84%が地方に居住し、さらにその内の 40.1%が貧困ライン（世界銀行）以下の生活をおくっているが、これらの貧困ライン以下の生活をおくっている人々は、そうでない人々より一層、自然資源に生活基盤を依存している。そのため、森林資源を代表とする自然資源の劣化はこれら人々の生活自体を極端に脅かすこととなり、そのことからカンボディアの森林資源と貧困との関わりは大きい。

カンボディア政府は、ADB の指導を受けて SEDPII（第二次社会経済開発 5 年計画）を策定し、その中で貧困削減を最重要テーマとしてあげている。また、貧困削減のための一手段として自然資源の持続可能な管理や持続可能な利用の実施を重要事項に設定している。

しかしながら、本分野を担当しているカンボディア国農林水産省森林野生生物局においては、植林、植林研究、訓練等の該当する知識・経験が不足しており、住民への啓蒙等も十分に実施できないことから、1999 年 4 月に我が国に対し、森林回復を目的とした技術開発、モデル林の造林、林業訓練・普及の実施、コミュニティーフォレストリーへの取り組み等を目的とした技術協力を要請越した。

5.2 森林減少の要因

カンボディアの森林減少や森林劣化に関する包括的なアセスメントが行われていないため、詳細な原因分析ができていないものの、FAO や WB は森林減少や森林劣化の主な要因として以下の点をあげている。

- (a) カンボディア内戦終了後の人口移動、難民の帰還、兵士の退役に伴って、これらの人々が森林地域に定住し、さらにその周辺が開墾されている
- (b) 年間 2.5%もの人口増加により、林地が農地に急激に開墾されている
- (c) 薪炭材として木が伐採されており、その量は 1.8 百万 m³（1961～1971 年）から、6.0 百万 m³（1991～1994 年）と増加している
- (d) 商業的木材伐採においては、過剰伐採や不適切な管理が見られる
- (e) 森林野生生物局の監視が届かないところでの、森林地の不法占拠、森林生産物の不法略奪が見られる
- (f) 商業的伐採後地に住民による不法の入植があり、土地を勝手に開墾している

なお FAO は、1998 年の一年間にカンボディアで行われる森林伐採のうち、商的に木材を伐採する量は 1.04 百万 m³ であり、薪炭材などの燃料用として使用される量はその約 7 倍の 6.97 百万 m³ と見積もっている。カンボディアは国内の全燃料の 84%は、薪炭材でまかなっており、そのため FAO はカンボディアにおける森林セクターでの対策において、商的な部分のみならず、住民を対象とした対策の必要性を説いている。

5.3 森林分野の主なニーズと人的資源のバックグラウンド

(1) ニーズ

a) キャパシティビルディングのニーズ

カンボディアの森林に関する法律や制度は、現在策定段階であったり、既に策定されたものでも実状に合っておらず実際には適用できないものがあるなど、その多くはいまだに手が加えられている状況である。これら法・制度の策定についてはアジア開発銀行や世界銀行などが支援しているが、実際に法律や制度を運用するカンボディアスタッフの育成も重要視されている。

一方、カンボディア森林セクター第二次 5 年計画では、カンボディア国内には再生すべき約 6 万 km² の林地があり、そのため年間 662km² の植林が必要であると説いている。しかしながら、実際に植林が行われるのは年間 5~6 km² であり、5 年計画と実際の植林量には大きな量的格差が存在する。森林伐採量を見てみると、ここ 30 年間に於いて 27,000 km²(天然林面積の約 20%を占める)に達するなど、森林減少に対する政府の管理、監督がなされておらず、その部分の強化が求められる。

b) ドナー間調整のためのニーズ

一方、カンボディアの森林分野では、各ドナーによっていくつかのプロジェクトが実施されてきた。これらのプロジェクトは、問題解決のための技術的なサポートを実施しているが、各ドナーは個々にターゲットを選定して、技術移転を行ってきたと言える。

ところが、これらプロジェクトの数が多くなっている現在、いくつかのプロジェクトを調整・統合することで、より効果的にカンボディア森林分野の問題解決に寄与できるものと認識し始められるようになっており、各ドナーもその必要性を感じている。そのため、これらのプロジェクトを総監し、カンボディア森林という全体を総監する戦略に沿って、プロジェクト間を調整する機能が森林野生生物局に求められている。

これらに共通するは、森林行政機関である森林野生生物局の組織の能力強化である。森林野生生物局の森林再生のワーキンググループ自身でも、森林を管理するためには、これ

ら事業の実施、モニタリング、評価などの部分においての能力向上が重要であると認識している。

(2) 人的資源のバックグラウンド

同国の森林行政を担当するのは、農林水産省森林野生生物局であるが、ここで上記のニーズに対処することになる。森林分野の人材について検討する。

森林野生生物局は、登録上約 760 名を有する機関であるが、これらスタッフの内、約 1/3 (約 260 名) が何も資格を持たない者である。残りの約 2/3 (約 500 名) はエージェントと呼ばれる資格以上を有する者で、森林または行政部門のバックグラウンドを有していると考えられる。しかし、カンボディアで森林の資源回復、森林経営やコミュニティフォレストリーを実施するにおいても、森林野生生物局では造林部や森林経営部のスタッフが主活動者となっているが、さらにその数は約 150 名程度に限定されてしまう。また、これらのスタッフの年齢は 30 歳代が中心であり、大半のスタッフは本分野での経験年数は長いものではないと言える。なお、これらのスタッフは紛争終了後に高等教育を受けた者が大多数である。

一方、農林水産省の地方州事務所の下には森林事務所が組織され、主に州地における植林作業を行っている。活動は予算が組まれた場合のみ行われ、このため予算によって活動内容が大きく制限されていると言える。州森林スタッフ数も平均して 1 州当たり 44 名であるが、その内の約 40% が資格を持たないスタッフであることから、実質的に森林に関する知識をある程度有していると考えられるスタッフ数は州の平均で 14 名となり、この数で州の森林全体をカバーすることはかなりの困難が考えられる。

6. 日本の協力の意義

(1) カンボディアへの協力

アジア・太平洋地域の平和と安定及び発展を考えると、カンボディアの安定が不可欠であり、カンボディアが和平合意後の荒廃した国土の復旧・復興及び民主化を達成していくため、日本はカンボディア新政府が安定した政権を維持する必要があると考えている。そのため、同国の復興及び民主化に向けた努力を積極的に支援することとし、DAC 新開発戦略の重点国として、我が国 ODA 大綱を踏まえつつ協力を行っている。

日本は、カンボディア側との政策対話を踏まえ、人道援助を中心に緊急に必要とされる援助を実施するとともに、中長期的な視野に立って、(1)経済インフラ、(2)保健・医療等の基礎的生活分野、(3)農業、(4)人材育成等の分野を重点分野とし、各種スキームを有機的に連携させて支援を行うこととしており、これまで無償資金協力及び技術協力を実施してきた。

1999年2月に東京で開催されたカンボディア支援国会合（CG）では、カンボディアにおける兵員削減、森林保全、行政改革の必要性について確認され、それぞれのフォローアップのためのモニタリング会合を四半期毎に開催することで合意した。また、2001年6月に東京で開催されたCG会合においても、実施されてきた協力の必要性を再確認すると共に、カンボディア政府の自主的な取り組みを支援していくとしている。

なお、JICAではこれらに基づいて、2000-2003年を対象期間とする対カンボディア国別事業実施計画を策定し、次の4点を基本的な援助の諸点として考慮している。

個別特定技術の移転はもとより、今後の開発の基礎となる、組織・制度作りを支える人材育成を中心とするキャパシティ・ビルディングが重要である

アセアン加盟による地域経済統合の本格化に伴い、カンボディアにおける経済振興政策の充実が重要である

紛争で破壊されたインフラ整備は、貧困格差のある都市と地方間を結ぶ意味からも不可欠である

開発の足かせとなっている地雷問題に対して、改善のための支援を行う

（2）森林セクター

森林を含め、有限な自然資源の保全と利用は地球規模の課題であり、この課題に積極的に取り組むことは、リーディングドナーとしての日本の責務である。

また日本は木材消費量の80%以上を輸入に頼っていることから、これらの国々の森林セクターに対する協力は必須であるとともに、開発途上国が持続的に森林管理を実施できるように技術的な協力を行う必要がある。

カンボディア国別事業実施計画では、8つの優先協力分野を設定している。森林セクターは、このうち「環境資源管理」の優先協力分野として、カンボディア国に対する今後の中心となる援助のひとつとしてとらえている。

7. プロジェクトの戦略

（1）全体戦略

上記、5～6章を受けて、プロジェクトでは以下の2点の能力向上について取り扱うことが効果的と考える。

第一に、森林行政政府機関である森林野生生物局組織としての監督業務、調整などの能力向上であり、ここではカンボディアで展開している各種ドナーが実施しているプロジェクトを効率的に調整する能力向上を含む。また、第二に、森林技術スタッフの森林技術レ

ベルの能力向上であり、例えば苗畑技術を初めとする森林資源回復分野などの技術向上である。

(2) ターゲットグループ

流動的なカンボディアの状況を考慮するとプロジェクト開始前にターゲットグループを少数に絞り込むことは望ましくないと考える。しかし、以下の理由により森林野生生物局職員及び地方州政府森林官を、本プロジェクトのターゲットグループとすることが考えられる。

- ・自然保護区及び海岸、湖岸周辺林地以外の全てのカンボディア森林地は森林野生生物局が管理監督すると規定されており、最も広範にカンボディアの森林改善に寄与できる
- ・森林野生生物局の組織の能力不足、局の資機材不足が著しく、その改善にほとんど手を付けられていなかった
- ・経験が浅いスタッフが大半を占めるので、訓練の機会を与えることは、人材育成に大変効果的である
- ・これら訓練を受けたスタッフによって、広くカンボディア全土の森林に関する問題対処に寄与できる

(3) ターゲットとする範囲

ドナー間の調整能力向上については、その範囲が全ての森林分野の活動となるが、本プロジェクトでは、他ドナーの活動の影響を最小限にするために、森林野生生物局のスタッフや組織として行う調整能力に焦点を当て、その能力向上をプロジェクトのひとつの活動の範囲として設定する（PDM 成果 1 の範囲）。

また、以下の理由により森林資源回復の分野の技術協力においては、JICA がリードエージェンシーとして、森林技術に関する活動することが想定される（PDM 成果 2 の範囲）。

- ・カンボディア個別派遣長期専門家による同分野での先行実績がある
- ・同分野での日本の他国への技術協力の実績がある

なお、他の範囲（森林管理・森林利用やコミュニティーフォレストリーなど）においても他ドナーとの協調により、実施することがあると想定される。

8. プロジェクトの概要

8.1 上位目標

プロジェクト実施によって得られた森林資源回復、森林管理・利用、コミュニティ・フォレストリーの分野の優良事例が、森林野生生物局職員を中心とする人材によって、本案件終了から2年度の2006年にはカンボディア国内の10州以上に広められ、6年後の2010年には全ての州に広められる。

8.2 プロジェクト目標

本プロジェクト実施によって、プロジェクトが終了するまでに、(1)森林資源の回復、(2)森林管理・森林利用、(3)コミュニティ・フォレストリーの各分野に関わる法制度、政策実行、計画策定、事業実施において、森林野生生物局職員を中心とするターゲットとするグループが、計画、実施、モニタリング・評価を行う一連の能力を向上させる。

なお、この能力向上の達成度合いを以下のベンチマークを使用し標準化し、プロジェクト開始時点でDレベルと想定されるものを、2004年12月までにはBレベル以上に引き上げる。

(達成度合い確認用ベンチマーク)

- A. ターゲットグループは、自ら、各分野(森林資源回復、森林管理・利用、コミュニティ・フォレストリー等)における課題を実行するとともに、問題、ニーズ、組織等の分析に基づき、それを修正、発展させる組織的能力を有する。
- B. ターゲットグループは、専門家の助言や協力を得て、課題を実行することができる。
- C. ターゲットグループは、専門家と共同で課題を実行することができる。
- D. ターゲットグループは、専門家の指導により、課題を実行することができる。
- E. ターゲットグループは、専門家の指導によっても、課題を実行することが困難である。

8.3 成果と活動

以下の(1.1)～(1.7)の活動により、森林行政における総合的な能力向上プログラムが、森林野生生物局によって毎年、計画され、実施され、評価されることで、その能力がプロジェクト開始時点でDレベルのものを、プロジェクト終了時点の2004年12月までにはBレベル以上に引き上げる。

(活動1.1)森林分野人材育成のための主要な課題を確認する

(活動1.2)ターゲットグループを確認するとともにその選定基準を明確にする

(活動1.3)人材育成に必要なとなる方法(講師陣)を確認する

(活動1.4)人材育成のための年間プログラムを策定する

- (活動 1.5) 年間プログラムを実施する
- (活動 1.6) 年間プログラムのモニタリング・評価を行う
- (活動 1.7) 次年度の年間プログラムに対して、評価結果をフィードバックする
- (活動 1.8) 得られた教訓を将来にフィードバックする

一方、以下の(2.1)～(2.2)活動により、ターゲットグループが研修を受け、プロジェクト終了時点で(a)～(d)の4項目についてそれぞれ5段階評価を実施し、その総合評点が5段階のBレベル以上に引き上げる。

- (a) 選択された分野別に、各分野のコース数が当該分野のニーズを満たしたか
- (b) 訓練コース別に各コースのカリキュラムがどの程度利用されたか
- (c) 訓練センターの建設と、その利用度合いはどうか
- (d) ターゲットグループのネットワークの構築と、その利用度合いはどうか

- (活動 2.1) 訓練・研修環境を整える
- (活動 2.2) 年間訓練・研修計画を実施する

8.5 投入

- (1) 日本側
 - (1-1) 長期専門家 3名
 - a) チーフアドバイザー / 人材育成計画 36MM
 - b) 研修・訓練 36MM
 - c) プロジェクト業務調整 36MM*
 - (1-2) 短期専門家
 - (1-3) C/P 研修(本邦研修または東南アジア地域研修)年間2～3名程度
 - (1-4) 施設
 - a) ニューボンペンにおけるプロジェクト本部 兼 訓練施設
 - b) 地方実習地
 - (1-5) 供与機材
 - (1-6) 補足運営費

(2) カンボディア側

(2-1) C/P の配置

- a) プロジェクトダイレクター
- b) プロジェクトマネージャー
- c) プロジェクトスタッフ

(常駐する常勤スタッフ、関係部課からの職員、関係州からの職員、管理・事務職員)

(2-2) 機材、設備の配置

- a) ニュープノンペンにおける訓練センター用土地、光熱用設備
- b) 森林野生生物局内の連携事務所
- c) 訓練センター立ち上げ前の仮事務所

(2-3) 管理、運営費用

なお、カンボディア側のプロジェクトスタッフの内、一名はプロジェクトマネージャー代理として、プロジェクト事務所がニュープノンペンに移転後もスタッフとして常駐し、現地での取りまとめ及び森林野生生物局本局とのつなぎ役を担う。

8.6 プロジェクト実施体制

プロジェクト実施期間中は、森林野生生物局長がプロジェクトダイレクターとしてカンボディア側を、長期専門家チーフアドバイザー兼人材育成計画が日本側を代表としてプロジェクトの実施に望む。

同時に、合同調整委員会を設けて、プロジェクトに関わる方針、重要事項の検討を行うとともに、プロジェクトの評価モニタリング、およびプロジェクトで計画される年間計画の審査・承認を担う。

9. プロジェクトの効果

総合的に言えば、先行き不安な商業伐採依存から脱し、森林の再生と持続的な管理を行うことは、主として地方村落に益するが、森林資源が国土、水、野生生物などを維持する機能を考えれば、カンボディア国民全体に資する。SEDPII で貧困対策を同国の最重要課題としてあげており、その手段の一つとして森林資源を初めとする国民共通の財産である自然資源の有効利用が唱われ、同国の社会経済に及ぼす影響は大きいとされている。国民の84%が地方に居住し、その40.1%が貧困ライン以下の生活をおくっているカンボディアにとっては、安定した森林利用は大変重要である。

プロジェクト実施によって、森林野生生物局の組織能力やスタッフの能力向上が期待さ

れ、将来的に森林資源回復や森林資源の持続的利用に必要となる知識が蓄積される。それらスタッフによって、プロジェクト中及び終了後には、地域住民を巻き込んだ森林経営が全土に展開できることが期待できる。

10. 今後の評価計画

- (1) 半年から1年までに中間評価
- (2) 3年目に終了時評価
- (3) 四半期毎にプロジェクト専門家による活動報告および評価
- (4) 半年毎に運営委員会によるモニタリング
- (5) 短期専門家報告書（随時）

なお、上記に加え適宜第三者評価を組み合わせ評価を行う。

時期	内容	実施者	報告形態
2001.10	協力の開始		
2002.6	第1回モニタリング	プロジェクト	モニタリング調書
2002.10	中間評価	日本・カンボディア 合同評価チーム	ミニッツ
2002.12	第2回モニタリング	プロジェクト	モニタリング調書
2003.6	第3回モニタリング	プロジェクト	モニタリング調書
2003.12	第4回モニタリング	プロジェクト	モニタリング調書
2003.12	終了時評価	日本・カンボディア 合同評価チーム	ミニッツ
2004.6	第5回モニタリング	プロジェクト	モニタリング調書
2004.12	協力の終了		

表3 モニタリング・評価日程

以 上

10.日 程 表

No.	年月日	曜日	協力計画	訓練ニーズ調査	組織分析/計画分析	宿泊都市
			内容	内容	内容	
1	2001.1.8	月	午前：成田発10:30→ (TG641便) → 午後：バンコク着15:30			バンコク
2	2001.1.9	火	バンコク発08:20→ (TG696便) →ブノンベン09:35 11:00吉田憲信専門家との打ち合わせ 16:00日本大使館表敬、17:30通訳との打ち合わせ、18:00JICA事務所表敬			ブノンベン
3	2001.1.10	水	8:00農林水産省表敬、9:00森林野生生物局表敬 10:00カンボディア開発評議会表敬、14:30森林野生生物局調査団説明、意見交換			ブノンベン
4	2001.1.11	木	8:00FAO聞き取り調査 14:00世界銀行表敬、16:00NGOフォーラム聞き取り調査			ブノンベン
5	2001.1.12	金	10:00USAID聞き取り調査 14:00GTZ聞き取り調査、16:00CDC/DANIDA聞き取り調査			ブノンベン
6	2001.1.13	土	調査団内打ち合わせ、および検討会			ブノンベン
7	2001.1.14	日	調査団内打ち合わせ、PCMワークショップ準備			ブノンベン
8	2001.1.15	月	9:00～18:00 PCMワークショップ (第1日目) (参加者分析、問題分析)			ブノンベン
9	2001.1.16	火	8:00～19:15 PCMワークショップ (第2日目) (目的分析、PDM)			ブノンベン
10	2001.1.17	水	午前：ワークショップ片づけ、団内打ち合わせ 午後：調査項目の検討及び日程調整			ブノンベン
11	2001.1.18	木	午前：森林野生生物局各部課聞き取り調査 14:00ADB聞き取り調査、15:00世界銀行聞き取り調査			ブノンベン
12	2001.1.19	金	9:00環境省長期専門家聞き取り調査 15:00日本 大使館報告、16:00UNDP聞き取り調査 18:00JICA事務所報告	9:00環境省長期専門家聞き取り調査 10:00森林野生生物局聞き取り調査 (FMO部長、AFO部長) 16:00UNDP聞き取り調査		ブノンベン
13	2001.1.20	土	ブノンベン発10:35→ (TG697便) → バンコク着11:40	団内打ち合わせ、検討会		ブノンベン
14	2001.1.21	日	バンコク発11:20→ (TG640便) →成田着19:00	報告書作成		ブノンベン
15	2001.1.22	月		10:00OTAKEO州森林事務所視察 14:00ブノントマオ試験林候補地 16:00プロジェクト予定地		ブノンベン
16	2001.1.23	火		森林野生生物局聞き取り調査： AFO、副局長、人事管理部	森林野生生物局聞き取り調査及び第2 回WS依頼： 副局長WRO、人事管理部長、副局長 RFO/AFO	ブノンベン
17	2001.1.24	水		森林野生生物局聞き取り調査： 吉田専門家	森林野生生物局聞き取り調査：計画財 務部長、 副局長KAMFOREXIM、FWRI所長	ブノンベン
18	2001.1.25	木		午前：森林野生生物局聞き取り調査、 WS準備 (組織・計画分析) 14:00 Concern Worldwide聞き取り調査		ブノンベン
19	2001.1.26	金		報告書 (訓練ニーズ) の作成、森林野生 生物局挨拶	WS準備と打合せ 森林野生生物局聞き取り調査：法務部 長	ブノンベン
20	2001.1.27	土		ブノンベン発10:35→ (TG697便) → バンコク着11:40	報告書作成 ワークショップ準備	ブノンベン
21	2001.1.28	日		バンコク発11:20→ (TG640便) →成 田着19:00	ワークショップ準備 及び通訳との打合せ	ブノンベン
22	2001.1.29	月			PCM/組織分析ワークショップ (第1日 目) 問題系図/目的系図再構	ブノンベン
23	2001.1.30	火			PCM/組織分析ワークショップ (第2日 目) プロジェクト選択、PDM作成、組織分 析ツール紹介	ブノンベン
24	2001.1.31	水			ワークショップ片付け、結果集計、計 画財務部長より土地問題確認、報告書 作成	ブノンベン
25	2001.2.1	木			調査報告書のドラフト作成	ブノンベン
26	2001.2.2	金			9:00 森林野生生物局調査結果報告 16:00 JICA事務所調査結果報告/検討、 調査費精算	ブノンベン
27	2001.2.3	土			ブノンベン発10:35→ (TG697便) → バンコク着11:40	バンコク
27	2001.2.4	日			バンコク発11:20→ (TG640便) →成 田着19:00	

短期調査（第二回） 日程表

No.	年月日	曜日	総括、訓練計画、協力計画	計画分析	宿泊都市
			内容	内容	
1	2001.5.13	日		移動（成田11:00→(JL717)→バンコク15:15)	バンコク
2	2001.5.14	月		移動（バンコク08:35→(TG696)→プノンベン09:50) 11:00 JICA事務所打ち合わせ 農林水産省森林野生生物局打ち合わせ 森林個別専門家との打ち合わせ	プノンベン
3	2001.5.15	火		農林水産省森林野生生物局調査 関係機関調査	プノンベン
4	2001.5.16	水		農林水産省森林野生生物局調査 関係ドナー調査 14:00 DANIDA-Tree Seed	プノンベン
5	2001.5.17	木		農林水産省森林野生生物局調査 関係機関調査	プノンベン
6	2001.5.18	金		農林水産省森林野生生物局調査 関係機関調査	プノンベン
7	2001.5.19	土		資料整理、プロジェクトドキュメント作成	プノンベン
8	2001.5.20	日	移動（成田11:00→(TG641)→バンコク15:30)	資料整理、プロジェクトドキュメント作成	バンコク プノンベン
9	2001.5.21	月	午前、午後：FAO-RAPA訪問、意見交換、資料収集 夕方：RECOFTC関係者との意見交換	農林水産省森林野生生物局調査 関係機関調査	バンコク プノンベン
10	2001.5.22	火	移動（バンコク08:35→(TG696)→プノンベン09:50) 11:30 大使館表敬 14:30 JICA事務所打ち合わせ 16:00 農林水産省表敬	農林水産省森林野生生物局調査 官団員に合流	プノンベン
11	2001.5.23	水	8:00 森林野生生物局表敬、調査団の説明、協議 11:00 FAO Forest Crime Monitoring and Reporting意見交換 14:00 GTZ-CGFP(普及)意見交換、15:20 CAMCOFTT意見交換 16:00 ニュープノンベンサイト予定見学		プノンベン
12	2001.5.24	木	8:00 CDC表敬 9:30 WB森林コンセッション管理プロジェクト意見交換 11:00 プロ技協専門家からの聞き取り 14:30 CARDI (Cambodia Agricultural Research and Development Institute)意見交換、施設見学		プノンベン
13	2001.5.25	金	プノンベン08:40→(FT996)→シェムリアップ09:20 シェムリアップ (FAO)視察 (全日)		シェムリアップ
14	2001.5.26	土	午前：関係施設見学 午後：シェムリアップ16:40→(FT999)→プノンベン17:20		プノンベン
15	2001.5.27	日	団内協議(調査結果整理及びミニッツドラフト作成)		プノンベン
16	2001.5.28	月	コンボンチュナン (オサンダン、ミアノークステーション、Concern共有林、CFSP: Cambodia Fuelwood Saving Project)見学		プノンベン
17	2001.5.29	火	午前：森林野生生物局との協議 午後：団内協議、ドラフト修正		プノンベン
18	2001.5.30	水	午前：団内協議(調査結果整理及びミニッツドラフト作成) 午後：森林野生生物局との協議		プノンベン
19	2001.5.31	木	午前：森林野生生物局との協議 15:00 ミニッツの署名		プノンベン
20	2001.6.1	金	(カンボディア祝日) 9:00 JICA事務所報告 10:30 日本大使館報告 午後：移動（プノンベン18:50→(TG699)→バンコク19:55) 夜間：移動（バンコク23:10→(TG642)→	午前：同左 午後：資料整理、追加調査	バンコク プノンベン
21	2001.6.2	土	移動（→日本着07:30)	資料整理、プロジェクトドキュメント作成	プノンベン
22	2001.6.3	日		資料整理、プロジェクトドキュメント作成	プノンベン
23	2001.6.4	月		プロジェクトドキュメント補足調査 ドナーへの追加調査 森林野生生物局への説明、意見収集	プノンベン
24	2001.6.5	火		午前：プロジェクトドキュメント、PDM作成 午後：移動（プノンベン18:50→(TG699)→バンコク19:55) 夜間：移動（バンコク22:30→(JL718)→	
25	2001.6.6	水		移動（→日本着06:20)	

短期調査（第三回） 日程表

協力計画、計画分析 団員				
日目	年月日	曜日	内容	宿泊都市
1	2001.8.23	木	移動（午前：成田発11:00→（TG641）→午後：バンコク着15:30）	バンコク
2	2001.8.24	金	午前：移動（バンコク発08:35→（TG696）→プノンベン着09:50） ・14:00 JICA事務所打ち合わせ ・森林個別専門家との打ち合わせ ・農林水産省森林野生生物局打ち合わせ及びプロジェクトドキュメント説明および意見聴取	プノンベン
3	2001.8.25	土	森林野生生物局からのコメントの整理とプロジェクトドキュメント修正	プノンベン
4	2001.8.26	日	森林野生生物局からのコメントの整理とプロジェクトドキュメント修正	プノンベン
5	2001.8.27	月	森林野生生物局との意見交換 （プロジェクトドキュメント、PDM、施設等） プロジェクトドキュメント修正、PDM検討	プノンベン
6	2001.8.28	火	森林野生生物局との意見交換 （プロジェクトドキュメント、施設計画、R/D） プロジェクトドキュメント修正	プノンベン
7	2001.8.29	水	森林野生生物局との意見交換 （プロジェクトドキュメント、施設計画、R/D等） プロジェクトドキュメント、PDM、R/D修正	プノンベン
8	2001.8.30	木	午前： 08:30 JICAカンボディア事務所報告 11:00 在カンボディア日本大使館報告 午後： 森林野生生物局最終説明 移動（プノンベン発18:50→（TG699）→バンコク着19:55）	バンコク
9	2001.8.31	金	移動（午前：バンコク発10:50→（TG640）→午後：成田着19:00）	

11. 面会者リスト

面会者リスト

*各調査毎に記載するため、重複あり。所属役職は面会当時のもの。

A. 短期調査（第一回）

1. 在カンボディア日本大使館
渡辺祐二 二等書記官
2. 国際協力事業団カンボディア事務所
松田教男 所長
小泉幸弘 担当所員
3. 農林水産省（Ministry of Agriculture Forestry and Fisheries, MAFF）
Mr. Chan Sarun Advisor to Prime Minister, Under Secretary of State、次官
工藤 浩 Advisor, Department of Planning, Statistics and International Cooperation
国際協力事業団長期派遣専門家
4. 森林野生生物局（Department of Forestry and Wildlife）表敬および全体打ち合わせ
Mr. Ty Sokhu Director General、局長
Executive Secretary, National Committee for Forest Policy
Mr. Chea Aamang Deputy Director, Reforestation and Management Office
Mr. Than Sarath Deputy Chief, Planning Office
Mr. Sauth Onn Deputy Chief, Reforestation Office
Mr. Chheng Kimsun Chief, Forstry Management Office
Mr. Chann Sophat Deputy Chief, Forest Wildlife Research Institute
Mr. Eang Sovet Deputy Chief, Forest Management Office
Mr. Hang Suntra Deputy Chief, Forest and Wildlife Reserch Institute
Mr. Haur Limchhun Unit Chief, Reforestation Office
Mr. Chip Bunthavin Deputy Chief, Administration and Personnel Office
Mr. Sauth Onn Deputy Chief, Afforestation Office
Mr. Chay Sengthong Staff, Forestry Management Office
吉田憲悟 森林資源保全アドバイザー、国際協力事業団長期派遣専門家
5. カンボディア開発評議会（Council for the Development of Cambodia, CDC）
Ms. Heng Sokun Director, Bilateral Aid Coordination Department
（Japan, Asia Pacific, America）二国間援助局代表
Mr. Im Sour Staff
梅崎路子 JICA Expert on Aid Coordination and Management
国際協力事業団長期派遣専門家
6. FAO（Food and Agriculture Organization of the United Nations）
Mr. Jean Claude Levasseur FAO Representative in Cambodia、FAO カンボディア代表
Mr. Richard Grandalski Chief Technical Advisor, Law enforcement Expert
チーフテクニカルアドバイザー

7. World Bank
 - Mr. Bonaventure Meida- Essama Chief Cambodia Country Office 代表
 - Mr. William B. Magrath Resource Economist
 - Ms. Helen Brereton Staff 所員
8. NGO Forum (NGO フォーラム)
 - Mr. Russell Peterson Representative 代表
 - Mr. Andrew Cock Forestry Policy Consultant 森林政策コンサルタント
9. USAID
 - Mr. Dennis Cengel Environmental / Agriculture Adviser 環境農業アドバイザー
10. GTZ/MRC (Mekong River Commission)
 - Dr. Hans Helmrich Chief Technical Adviser チーフテクニカルアドバイザー
Sustainable Management of Resources in the Lower Mekong Basin
Project
 - Mr. Christoph Feldkotter Staff (Forestry) スタッフ
Consulting Services in GIS-Remote Sensing- Forest Inventory
11. CDC (Council for the Development of Cambodia) /DANIDA
 - Mr. Loeung Kasaro Programme Officer, Natural Resources and Environmental Programme
12. ADB アジア開発銀行
 - Mr. Paul Im Resident Mission Program Officer, ADB Cambodia
13. UNDP 国連開発計画
 - Ms. Maria Suokko Program Officer, UNDP
14. 環境省
 - 西宮 洋 アドバイザー、国際協力事業団長期派遣専門家

B. 短期調査 (第二回)

1. 在カンボディア日本大使館
 - 植田康成 一等書記官
 - 日原 惇 一等書記官
 - 藤嶋浩司 一等書記官医務官
2. 国際協力事業団カンボディア事務所
 - 松田教男 所長
 - 野々口敦子 担当 (企画調整員)
3. 農林水産省 (Ministry of Agriculture Forestry and Fisheries, MAFF)
 - Mr. Chan Sarun Advisor to Prime Minister, Under Secretary of State、次官
4. 森林野生生物局 (Department of Forestry and Wildlife)
 - Mr. Ty Sokhun Director
 - Mr. Tim Sipha Chief of KAMFOREXIH
 - Mr. Eang Savet Chief of FCHR
 - Mr. Sauth Onn Deputy Chief of Afforestation
 - Mr. Hout Poulay Chief of Planning and Accounting Office,

- | | |
|-------------------|---|
| Mr. Than Sarath | Deputy of Planning and Accounting Office |
| Mr. Chea Samang | Deputy Director |
| Mr. Chheng Kimsun | Chief of FMO |
| Mr. Vong Sarun | Chief of Forestry and Wildlife Research Institute |
| 吉田憲悟 | 森林資源保全アドバイザー、国際協力事業団長期派遣専門家 |
- (CAMCOFTT)
- | | |
|-------------------|----------------------------------|
| Mr. Ly Chou Beang | Deputy of Reforestation Office |
| Mr. Lao Sethaphal | Chief of Community Forestry Unit |
| Mr. Lun Leimhy | Manager |
5. カンボディア開発評議会 (Council for the Development of Cambodia, CDC)

Ms. Heng Sokun	Director, Bilateral Aid Coordination Department (Japan, Asia Pacific, America) 二国間援助局代表
----------------	--
 6. FAO (Food and Agriculture Organization of the United Nations) Siem Reap

Mr. Patric T. Evans	Team Leader
---------------------	-------------
 7. FAO Forest Crime Monitoring and Reporting

Mr. Patcic Lyng	Chief Technical Advisor, Law Enforcement Expert
-----------------	---
 8. World Bank Forest Concession Management Project

Mr. Dennis Cengel	Environmental / Agriculture Adviser
-------------------	-------------------------------------
 9. Provincial Forestry Office Siem Reap

Mr. Em Mony	Deputy Chief of Forestry Office
-------------	---------------------------------
 10. GTZ

Dr. Jurgen Hess	Team Leader of Cambodian German Forestry Project
-----------------	--
 11. CARDI (Cambodian Agricultural Research and Development Institute)

Ph.D. Men Sarom	Director
-----------------	----------
 12. Council of Ministers

Mr. Yin Kim Sean	Advisor to Prime Minister
------------------	---------------------------
 13. 環境省

西宮 洋	アドバイザー、国際協力事業団長期派遣専門家
------	-----------------------
 14. カンボディア JICA プロ技協

村田隆一	Leader, Secondary School Teacher Training Project in Science and Mathematics
山崎三佳代	Project Coordinator, Technical Service Center for Irrigation System Project
 15. ITTO (横浜)

Dr. Ma Hwan Ok	Project Manager Forest Industry
Dr. Michael J Adams	Market Information Services Coordinator
Mr. Amha Bin Buang	Assistant Director, Economic Information and Market Intelligence
 16. 在タイ日本大使館

大脇 昭	一等書記官
------	-------
 17. タイ王立林野局

戸谷 玄	タイ王立林野局派遣 JICA 個別長期専門家
------	------------------------
 18. RECOFTC (タイ)

久保英之	プログラムオフィサー
------	------------
 19. FAO-RAPA (Regional Office for Asia and the Pacific) (タイ)

Mr. Masakazu Kashio	Forest Resources Officer
---------------------	--------------------------

Dr. S. Appanah	Senior Programme Adviser
Mr. Darmo Suparmo	Regional NFP Adviser Asia and the Pacific
Mr. Soren Dalsgaard	Associate Professional Officer
Mr. Patrick B. Durst	Senior Forestry Officer for Asia and the Pacific
Mr. Shinjiro Amameishi	Young Professional Officer

C. 短期調査（第三回）

1. 在カンボディア日本大使館
植田康成 一等書記官
2. 国際協力事業団カンボディア事務所
松田教男 所長
野々口敦子 担当（企画調査員）
3. 森林野生生物局（Department of Forestry and Wildlife）
Mr. Ty Sokhun Director
Mr. Tim Sipha Chief of KAMFOREXIH
Mr. Eang Savet Chief of FCHR
Mr. Sauth Onn Deputy Chief of Afforestation
Mr. Hout Poulay Chief of Planning and Accounting Office,
Mr. Than Sarath Deputy of Planning and Accounting Office
Mr. Chea Samang Deputy Director
Mr. Chheng Kimsun Chief of FMO
Mr. Vong Sarun Chief of Forestry and Wildlife Research Institute
吉田憲悟 森林資源保全アドバイザー、国際協力事業団長期派遣専門家

以 上

12. 収集資料リスト

収集資料リスト一覧

A. 短期調査（第一回）

1 . DFW

- (1) DFW の小冊子（組織図（2001年1月現在）等）
- (2) スタッフ数リスト

2 . USAID

- (1) Briefing Booklet

3 . GTZ

- (1) Cambodia Project Planning Matrix (PPM)
- (2) Annual Community Forestry Workplans
- (3) Minute of Meeting Community Forestry Working Group on 5 Jan 2000
- (4) Review of the GTZ/MRC Sustainable Management of Resources in the Lower Mekong Basin Project (SMRP) Cambodia Report
- (5) Concepts and Methods of Participatory Forest Management
- (6) Fourth Quarterly Report of Camcoftt (Oct-Dec 2000)
- (7) Mekonginfo Partners update
- (8) Camcoftt Training Courses for 2001 in Cambodia
- (9) Mekonginfo Web hosting service
- (10) Regional information System on participatory natural resource management (www.Mekonginfo.org) の小冊子
- (11) CD-ROM 2種類

4 . CDC / DANIDA

- (1) Danida Natural Resource and Environment Programme, Cambodia

5 . JICA カンボディア事務所

- (1) 議事録 Donor's Working Group on Natural Resources Management (WG-NRM) on 17 Nov 2000
 - (2) 議事録 Forestry Donor Sub Group Meeting on 9 Dec 2000
 - (3) Progress Report on Forest Policy Reform Process to the local donor group meeting
 - (4) Statement of H.E. Chhea Song, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries State in third quarterly meeting between the Royal Government of Cambodia and the donor community on 5-6 Apr 2000
 - (5) カンボディア国に対する援助方針
 - (6) 国別援助計画の主要国際機関・ドナー・NGOs の動向
- #### 6 . 吉田憲悟長期専門家（一部には事前に入手したものあり）
- (1) The Second Five-Year Plan for the Forestry Sector 2001-2005
 - (2) Forestry Law (MAFF Final Draft May 5, 2000)
 - (3) Concepts and Methods for Participatory Forest Management
 - (4) Report of the Meeting of Working Group on Forest Rehabilitation
 - (5) Draft Issue Paper on Forestry, Donor's Working Group on Natural Resources

Management

- (6) National Strategic Plan for Forest Rehabilitation (on 18 Dec 2000) Draft
- (7) Donor Activity in Forestry, Fisheries and Land Policy (各ドナーの活動一覧表)
- (8) Profile of the Ministry of Environment (環境省のプロファイル一部抜粋)
- 7. 工藤 JICA 長期専門家
 - (1) Organizational Chart of the MAFF (農林水産省の組織図)
- 8. ADB
 - (1) ADB Cambodia Enabling a Socioeconomic Renaissance, July 2000

B. 短期調査(第二回)(*日本国内で事前に収集したものも含む)

1. FAO-RAPA

- (1) Forests Cover Statistic (1998) カンボディア州毎の森林データの最新版
- (2) Forspa (Forestry Research Support Programme for Asia and the Pacific) パンフレット2種
- (3) Wood Energy News – Wood Energy Training and Education-
- (4) Regional Wood Energy Development Programme in Asia – Woodfuel Flow Study of Phnom Penh, Cambodia
- (5) Asia and the Pacific Update national forestry programmes アジアと大洋州の森林関係の概要説明書
- (6) Back-to-Office Report (櫻尾氏カンボディア出張報告書)

2. FAO シェムリアップ

- (1) RAD (Rural Aquaculture Development Program Siem Reap Province) 活動パンフレット
- (2) Siem Reap Summary Profile
- (3) Community Forestry Situation Siem Reap Province (統計資料)

3. DFW (森林野生生物局)

- (1) First Year Report on Forest Crime Monitoring and Reporting
- (2) Table of Activities and Results of Monitoring and Crackdown of the Forest Offenses from January 1999 to April 2001. (翻訳版、オリジナルはクメール語)
- (3) The Cambodian Code of Practice for Forest Harvesting
- (4) Governance Action Plan
- (5) Project Proposal Cambodian Community Forestry Training Team (CAMCOFTT)

4. 環境省

- (1) General Briefing the current situation of the National Protected Areas in Cambodia
- (2) Development and Environment in Cambodia

5. ADB

- (1) Draft Cambodian Forest Concession Review Report
- (2) Community Forestry Guidelines
- (3) Cambodian Forest Concession Review –Evaluation of the draft report and recommendations for follow up action – Final Report of the Expert Panel

6. CARDI (Cambodian Agricultural Research and Development Institute) 農業関係機関

- (教育も実施)
- (1) TIC Training 2001 研修コースの概要説明書
- 7. GTZ
- (1) Cambodian German Forestry Project PDM
- 8. JICA
- (1) 平成 13 年度 JICA 国別事業実施計画 ドラフト
- (2) カンボディア 5 年計画ドラフト (First Draft of the Second 5 year Socioeconomic Development Plan, 2001-2005)
- (3) カンボジアの森林問題 現状と課題 フィールドワークからの考察 (和・英)
- (4) 我が国の政府開発援助 (国別援助) カンボディア部分抜粋
- 9. 吉田憲悟長期専門家
- (1) Forest Resource Utilization and Tree Planting Activities around Phnom Tamao Area, Bati District, Takeo Province, Cambodia 吉田憲悟専門家報告書
- (2) 個別専門家の活動に関する情報
- (3) National Strategic Plan for Forest Rehabilitation
- 10. JICA カンボディア事務所
- (1) CG 半期会報告
- (2) Progress Report on Natural Resource Management to 1st Semester Meeting between the Royal Government of Cambodia and the donor community
- (3) Doner's Working Group on Natural Resources Mangement

- C. 短期調査 (第三回)
- 1. DFW (森林野生生物局)
- (1) ニュープノンペンの DFW 所有地の登記証明書 (写)

- D. 短期調査 (施設設計)
- 1. JICA カンボディア事務所
- (1) プノンペン市街地図
- (2) プノンペン市洪水防御・排水改善計画基本設計調査、同英語サマリー

以 上

13. 施設図面（一部抜粋）

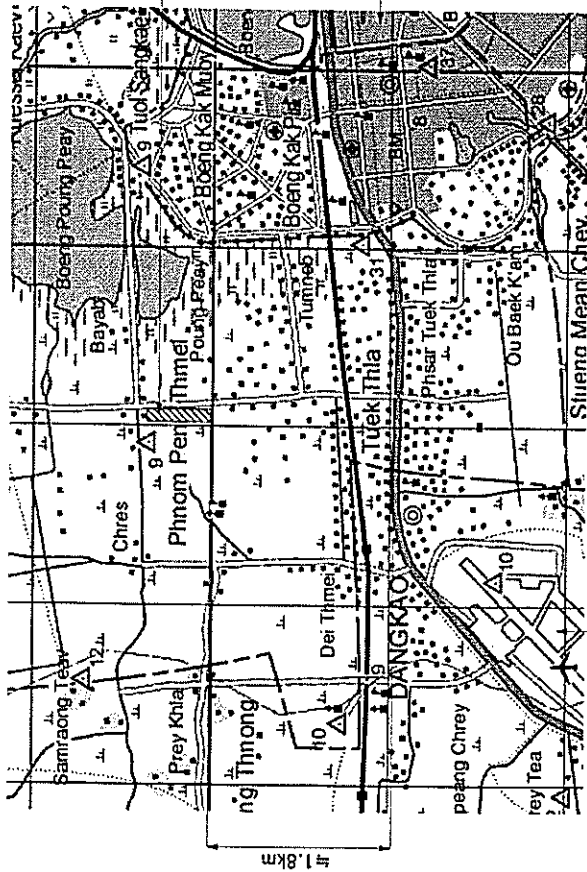
Section 6 DRAWINGS

FORESTRY & WILDLIFE TRAINING CENTER CONSTRUCTION DOCUMENT

13. 施設図面 (一部抜粋)

2002.01.16

VICINITY MAP



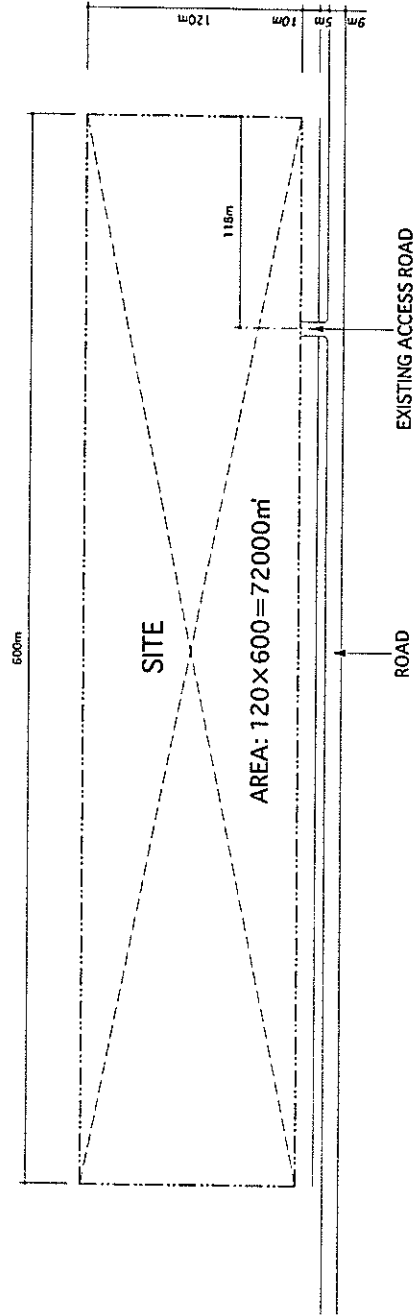
SITE FOR THE FORESTRY & WILDLIFE TRAINING CENTER
AT PHNOM PENH THMEI

CENTRAL AREA OF PHNOM PENH CITY

SCALE: 1/50,000

POUCHENTONG AIRPORT

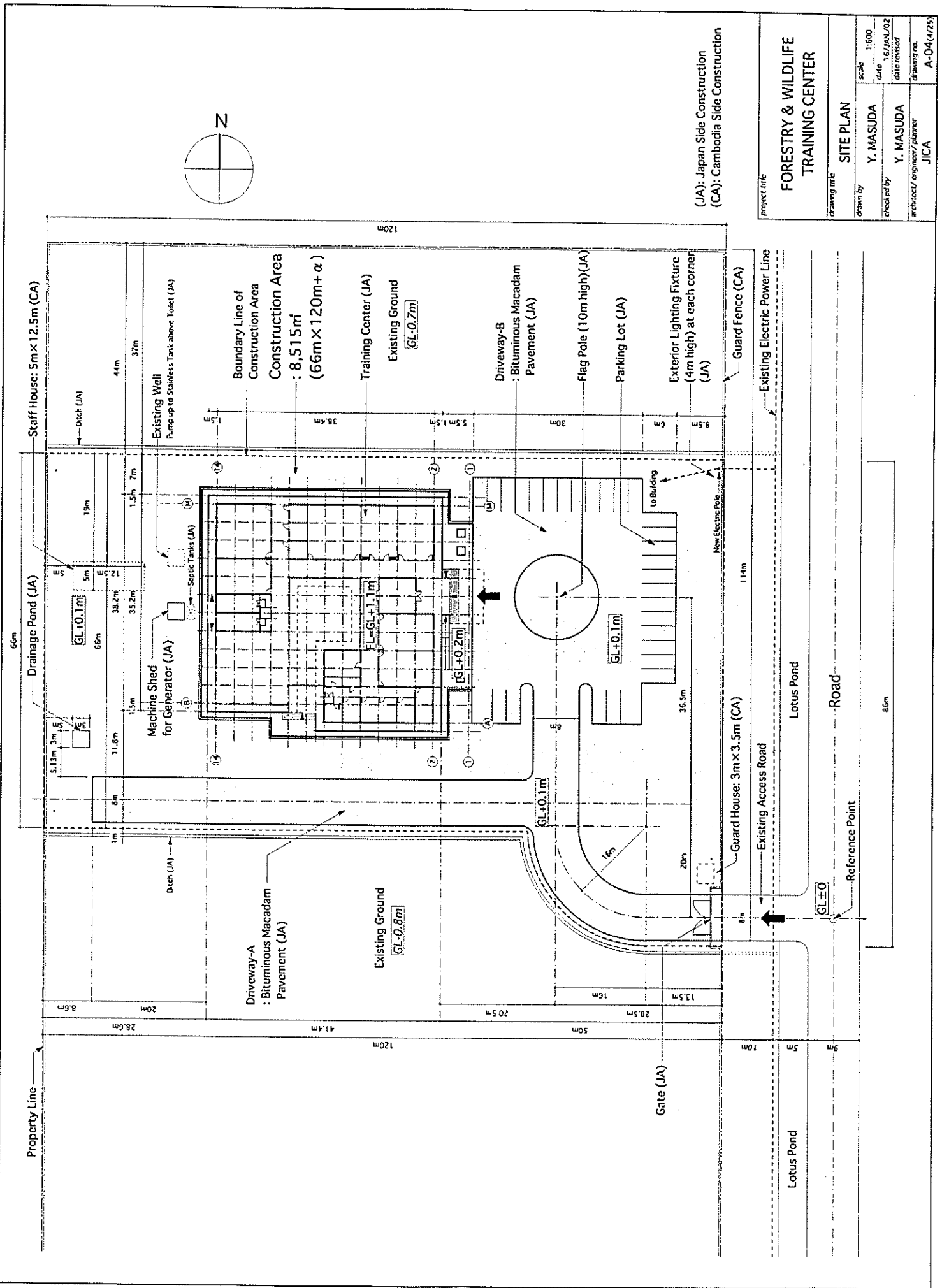
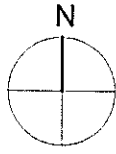
SITE AREA PLAN



AREA: 120 X 600 = 72000m²

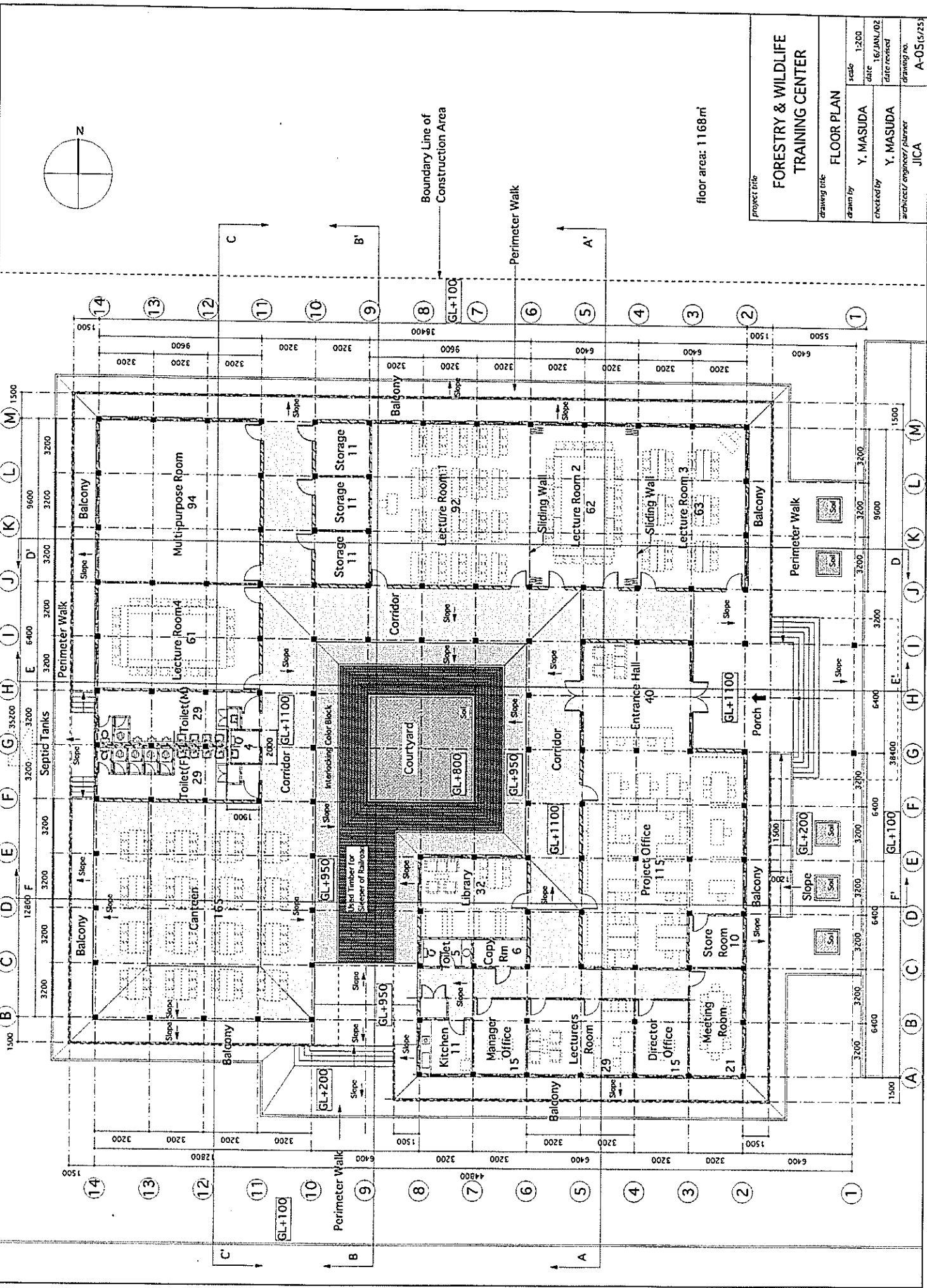
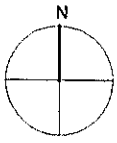
SCALE: 1/3,000

Project title		scale	1:50,000
FORESTRY & WILDLIFE TRAINING CENTER		date	13/000
drawing title		date revised	16/JAN/02
VICINITY MAP		architect/engineer/planner	JICA
drawn by	Y. MASUDA	drawing no.	A-02(2/25)
checked by	Y. MASUDA		



(JA): Japan Side Construction
 (CA): Cambodia Side Construction

Project title	FORESTRY & WILDLIFE TRAINING CENTER			
Drawing title	SITE PLAN			
Scale	1:500	Scale		
Drawn by	Y. MASUDA	Date	16/JAN/02	
Checked by	Y. MASUDA	Date/Revised		
Architect/Engineer/Planner	JICA	Drawing no.	A-04(1/25)	



Boundary Line of Construction Area

Perimeter Walk

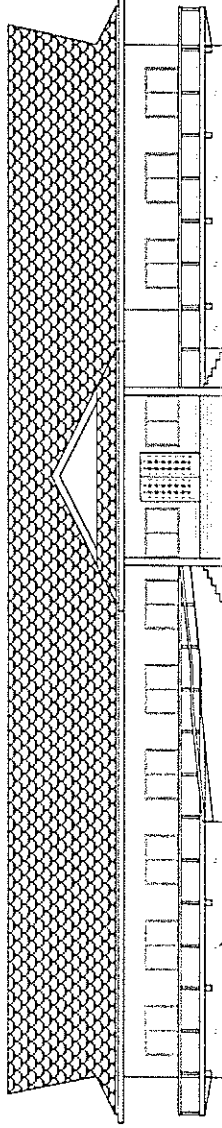
floor area: 1168m²

Project title

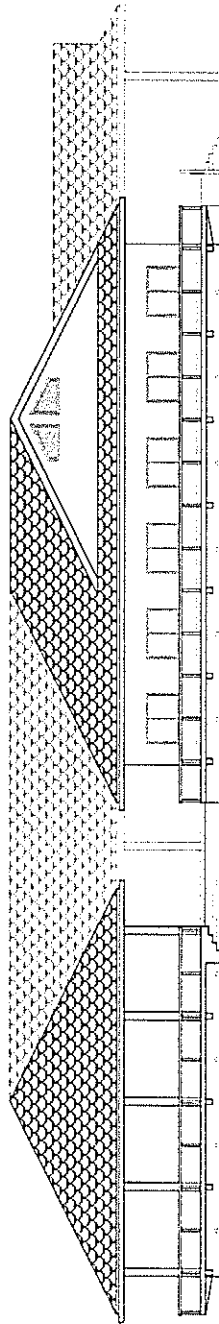
FORESTRY & WILDLIFE TRAINING CENTER

FLOOR PLAN

drawing title	FLOOR PLAN		
drawn by	Y. MASUDA	scale	1:200
checked by	Y. MASUDA	date	16/JAN/02
architect/engineer/planner	JICA	date revised	
		drawing no.	A-0515/25



EAST ELEVATION



SOUTH ELEVATION

project title

**FORESTRY & WILDLIFE
TRAINING CENTER**

drawing title

ELEVATION - 1

drawn by

Y. MASUDA

checked by

Y. MASUDA

architect/engineer/planner

JICA

scale

1:200

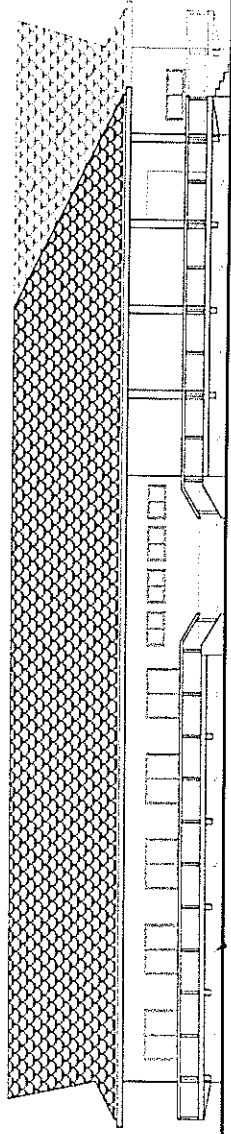
date

16/JAN/02

date revised

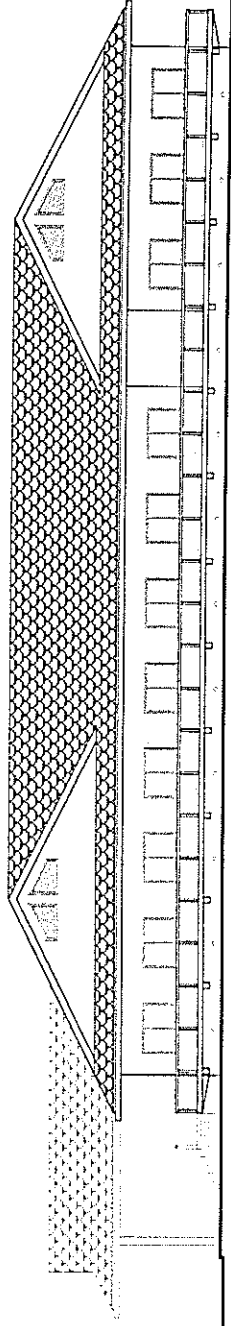
drawing no.

A-07(17/25)



WEST ELEVATION

PVC PIPE WITH MOSQUITO NET



NORTH ELEVATION

Project title		ELEVATION - 2	
FORESTRY & WILDLIFE TRAINING CENTER			
Drawing title	scale	1:200	
Drawn by	Y. MASUDA	date	16/JAN/02
Checked by	Y. MASUDA	date revised	
Architect/engineer/planner	JICA	Drawing no.	A-0818(25)